

Title	産学連携におけるコーディネータの活動事例について ： JSTイノベーションプラザ東海、JST復興促進センター 仙台事務所での活動を通じて
Author(s)	原田, 省三
Citation	年次学術大会講演要旨集, 27: 441-444
Issue Date	2012-10-27
Type	Conference Paper
Text version	publisher
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10119/11058">http://hdl.handle.net/10119/11058</a>
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載する ものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	一般講演要旨

## 講演題目

産学連携におけるコーディネータの活動事例について－JST イノベーション  
プラザ東海、JST 復興促進センター仙台事務所での活動を通じて

○発表者氏名（発表者所属）

（独）科学技術振興機構 JST 復興促進センター仙台事務所 原田 省三

## 1. はじめに

プラザ東海は、大学等の研究シーズの発掘から企業化までの研究開発をシームレスに支援し、地域のイノベーションを創出することを目的として、平成14年度に名古屋市に開館した。配置された4名の科学技術コーディネータが、担当地域の研究シーズの収集や企業ニーズの把握、シーズとニーズのマッチング、企業化に向けた産学官共同研究支援などを行ってきた。（平成21年11月の事業仕分けで、地域イノベーション創出総合支援事業が廃止との評価を受け、プラザは平成24年3月に閉館）。

さて、プラザ東海は、工場地帯の真っ只中に位置し、半径500m以内に100社を超える中小企業（零細企業）が集積している。これら中小企業は、国の科学技術支援が殆ど浸透してこなかった。一方、かなりの中小企業は、親企業の縛りから解放されて、自己技術を活かした製品開発を切望している。

ところが、中小企業からすれば、技術課題をどの様に解決したらよいか分からないし、誰に相談したらよいか分からない。このような状況の中で、プラザ東海で開館当初からコーディネータ業務に携わり、中小企業の産学連携支援を行い、地域活性化に取り組んできたので、その事例を紹介する。

また、平成24年4月から、全国の大学等の技術シーズの被災地企業における企業化、実用化を推し進めることにより、震災前の状態への復旧にとどまらず、新たなイノベーションの創出を図り、被災地経済の復興促進に貢献することを目指して、JST復興促進センターが開設された。この仙台事務所ではマッチングプランナーとして、被災地企業のニーズを発掘し、大学等のシーズとマッチングする事例についても、紹介する。

## 2. プラザ・サテライト事業 プラザ東海での活動内容

- ① 研究会（平成14～23年度）
- ② 産学官連携コーディネータ連絡会議（平成15～23年度）
- ③ 愛知開催：健康長寿関連 新技術説明会（平成18～22年度）
- ④ 東海ニューテクノフォーラム（平成20～23年度）
- ⑤ 企業懇話会（平成20～23年度）
- ⑥ 企業ニーズ発表会（平成21～23年度）
- ⑦ 近畿・中部地区プラザ・サテライトコーディネータ会議（平成21～23年度）

## ① 研究会

先進的研究事例を地域の企業に紹介し、新規事業の創出或いはその実用化を促進することを目的に、平成14年度に開催した。この研究会は平成23年度までに、80テーマの研究会を立ち上げ、延べ開催数は380回に及んだ。

核となる研究テーマ、及び座長の選任は、コーディネータが今後の展開など諸状況から判断して決めた。研究テーマは2年間で限度とし、参加数は20人前後、講演後は交流会を持つ事を基本ルールに開催した。マッチング、事業への応募に繋がった他、産-産交流、公募事業のPRや企業情報の入手がし易くなった。

## ②産学官連携コーディネータ連絡会議

開館直後で、プラザの知名度はなく、役割も理解されていなかった。一方、地域内の産学官連携の重要性を強く認識していた。そこで、地域内のコーディネータの資質の向上と交流を目的に、中部経済産業局と合同で平成15年度から2～3回/年開催した。

## ③愛知開催：健康長寿関連 新技術説明会

愛知県は平成17年、健康長寿産業の育成を図るため、「あいち健康長寿産業クラスター推進協議会」

を立ち上げた。これを受けて、健康長寿に関わる技術シーズを全国から集めるため、JST 本部が東京で開催している新技術説明会を、名古屋で、健康長寿のテーマに絞った新技術説明会を開催する様、働きかけた。技術シーズは、産学官連携推進会議（京都）、イノベーションジャパン（大学見本市）等の場を活用して見出した。共同研究、事業への応募、商品化など大きな成果を上げている。

#### ④東海ニューテクノフォーラム

企業ニーズを踏まえて、大学等の独自技術・新技術を、コーディネータが企業研究者等に分かりやすく説明して共同研究を呼びかける目的で開催した。毎回、テーマを決め、そのテーマに即した技術シーズをコーディネータが探し出し、5分間で背景、技術内容、従来技術・競合技術との比較、実用化に向けた課題、想定される用途等を要領よく発表するものである。興味を持った技術シーズがあれば、各コーディネータが発表後、別室に設けた説明パネルの所で、研究者とコーディネータから更に詳しく聞くことで理解を深める事が出来る。マッチング率も高く、年々企業の参加者が増えており、大学等と企業との交流を図る場として定着していた。その為、プラザ閉館後は、中部経済産業局が本事業を引き継いで行うこととなっている。

#### ⑤企業懇話会

近くの企業がどのようなことをやっているのか、どのような技術を持っているのか、意外と知らないことが分かった。そこで、企業間の交流を促進しつつ、大学等で生まれた技術シーズと、企業が抱える技術課題を結びつけ、その技術シーズの実用化を目指すことを目的に開催した。

また、産学連携支援活動を行う中で、中小企業を把握し、支援するのに市の役割が大きいことが分かった。そこで、自動車関連をはじめ独自の技術で頑張っている小企業が多数あり、市が地元企業支援に熱心で、地元企業の声を把握していることから、鈴鹿市と懇話会を開催した。産一産連携、競争的資金の獲得など成果を上げた。

#### ⑥企業ニーズ発表会

企業が発表者で、研究者と参加コーディネータに、企業の必要なニーズが何であるかを明確に伝える場を設けた。JST 本部が、大企業によるニーズの発表の場として「産から学へのプレゼンテーション」を開催しているが、「企業ニーズ発表会」では、発表企業を中小企業に絞った。また、企業の発表を15分、質疑応答が15分とし、この質疑応答を公開で行うことで、問題点をあぶりだし、企業のニーズを、発表者も研究者と参加コーディネータも、より明確に理解することが出来た。

コーディネータは発表資料の作成から発表まで、またその後のマッチングのフォローまで支援した。企業ニーズ発表会の趣旨・目的が理解され、地域の中小企業にも好評を博した。また、マッチング率が高く、共同研究、競争的資金の獲得など大きく成果が上がっている。プラザが閉館となるため、本事業を大府市、大府商工会議所がノウハウを引き継いで行う道筋がついた。

#### ⑦近畿・中部地区プラザ・サテライトコーディネータ会議

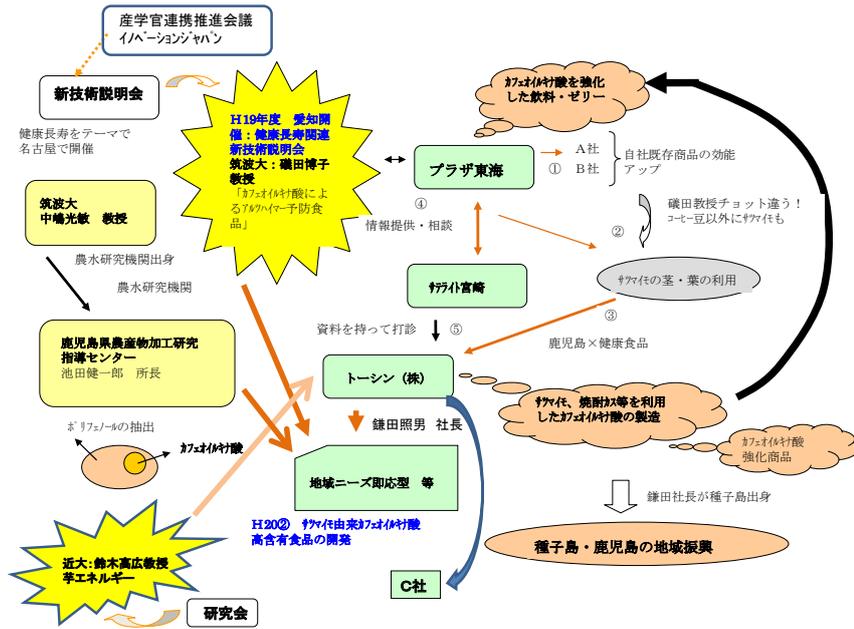
各プラザ・サテライトの優れた活動を、他館と情報を共有しつつ、各館の切磋琢磨を促す目的で呼びかけた。近畿・中部地区の5館からコーディネータが参加し、競争的資金の獲得活動から閉館に伴うノウハウの散逸など、資質の向上に止まらず館の運営のあり方まで多岐にわたった。

### 3. プラザ東海での活動事例

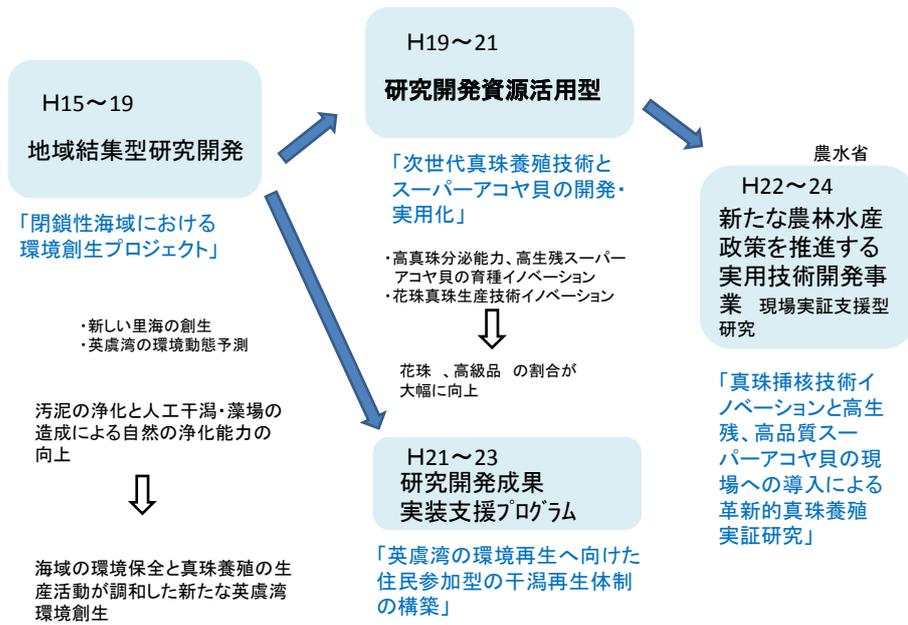
上記の活動の中で、

- ①愛知開催：健康長寿関連 新技術説明会から、筑波大学：礪田博子教授の「カフェオイルキナ酸によるアルツハイマー予防食品」
- ②研究開発資源活用型プロジェクトから、三重大学：古丸明教授の「次世代真珠養殖技術とスーパーアコヤ貝の開発・実用化」
- ③企業ニーズ発表会から、(株)中部デザイン研究所の「電池を使用しない補聴器の開発」について、少し詳しく活動を紹介する。

#### ①筑波大学：礪田博子教授の「カフェオイルキナ酸によるアルツハイマー予防食品」

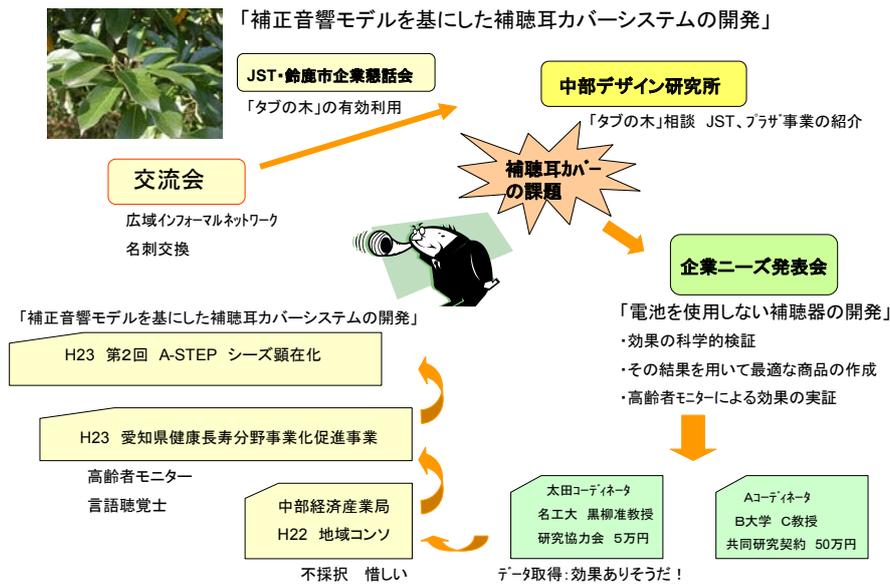


②三重大学：古丸明教授の「次世代真珠養殖技術とスーパーアコヤ貝の開発・実用化」



③名古屋工業大学：黒柳奨准教授「補正音響モデルを基にした補聴耳カバーシステムの研究開発」平成 23 年度第 2 回 A-STEP FS シーズ顕在化

### ③名古屋工業大学:黒柳奨准教授



#### 4. JST 復興促進センター仙台事務所での活動

同センターでは、東日本大震災からの復興に向けて、JST がこれまでに蓄積してきた知見や産学連携のノウハウ、強みを最大限に活用し、被災地発の企業ニーズの発掘、大学等シーズと企業ニーズのマッチング、共同研究の推進等の支援に精力的に取り組んでいる。

また、東海地域の企業及び大学の人脈を活かし、東北地域の大学及び企業とのマッチングも取り組んでいる。

#### 復興促進プログラム事業内容

事業名	マッチング促進			A-STEP		産学共創
	可能性試験	タイプ I	タイプ II	探索	シーズ顕在化	
事業内容	JST マッチングプランナーが産学官連携支援機関の協力のもとに被災地域の企業のニーズを発掘し、これを解決できる大学等の技術シーズとマッチングし産学共同研究を支援する			A-STEP 事業のもと FS ステージにおいて被災地域の企業ニーズを踏まえたシーズの実用化可能性検証を支援する		被災地域の産業界が望む技術的課題の解決に資する基盤研究を支援する。又産学共創の場を開催し産学の対話を通じて技術テーマの解決を加速する。
申請者	被災地企業、全国の大学等、JST マッチングプランナーの3者共同申請			全国の大学等、コーディネータ等の2者共同申請	被災地企業、全国の大学等の2者共同申請	全国の大学等
研究費	～200万円	～1000万円/年マッチングファンド	～2000万円/年マッチングファンド	基準額 170万円	基準額 800万円	最大 3000万円程度/年 H24年度は最大1500万円
期間	1年	1～3年		1年	1年	2～3年
募集期間	年間を通じ受付 第2回の締切は9月25日			募集終了 (締切 5月31日)		募集終了 (締切 6月14日)
採択予定件数	H24年度 100～300課題			300課題	50課題	10課題